

CAMU I 実機も登場

札幌 道庁で宇宙開発展

カムイロケットの実機や大気球の模型が目を引く宇宙開発展



【札幌】「北海道の宇宙開発展」(道、大樹町、十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会など主催)が8日から、道庁1階道政広報コーナーで開かれている。全長3・4歳の最新型のCAMU I(カムイ)ハイブリッドロケットの実機などが、来場者の注目を集めている。

道庁では、年々の2回目の開催。大樹町で行われている実験用大気球や、小型衛星HIT-SAT(ヒットサット)、超音速風洞装置などの小型模型を展示。陸別天文台による宇宙の音のDVD、カムイの打ち上げ実験の映像なども流している。

各団体の取り組みを約40枚のパネルで紹介、道内で展開されている宇宙開発の内容や成果をアピールしている。

道科学技術振興課は「道内の宇宙開発の状況が概観できる内容。大勢の人に來場してほしい」と話している。10日午後3時まで。(末次一郎)